

最近の経済動向

令和2年10月号

(北海道の景気動向～令和2年8月の経済指標を中心として)

低迷しているものの、一部に明るい動きがみられる

■生産動向

- P1 生産活動(鉱工業生産指数)
低い水準で推移している

■需要動向(消費・投資)

- P2 個人消費(百貨店・スーパー・コンビニエンスストア・専門量販店販売額、
インターネットを利用した一世帯支出額、新車登録台数)
一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが広がっている
- P6 住宅建設(新設住宅着工戸数)
一部に大型物件があったものの、低調に推移している
- P7 公共工事(公共工事請負金額)
増加している
- P8 観光(来道者数、来道外国人数)
低い水準にあるものの、持ち直しの動きが広がっている
- P10 輸出入(輸出額、輸入額)
輸出額、輸入額とも前年を下回った

■企業倒産

- P11 企業倒産(倒産件数、負債総額)
倒産件数、負債総額ともに減少した

■雇用動向

- P13 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、月間有効求人倍率、完全失業率)
さらに弱い動きが広がっている

■物価動向

- P15 物価(消費者物価指数)
消費者物価指数は前年を下回った

■企業の業況感

- P16 企業経営者意識調査
前期から上昇している
- P17 企業のみなさまから伺いました

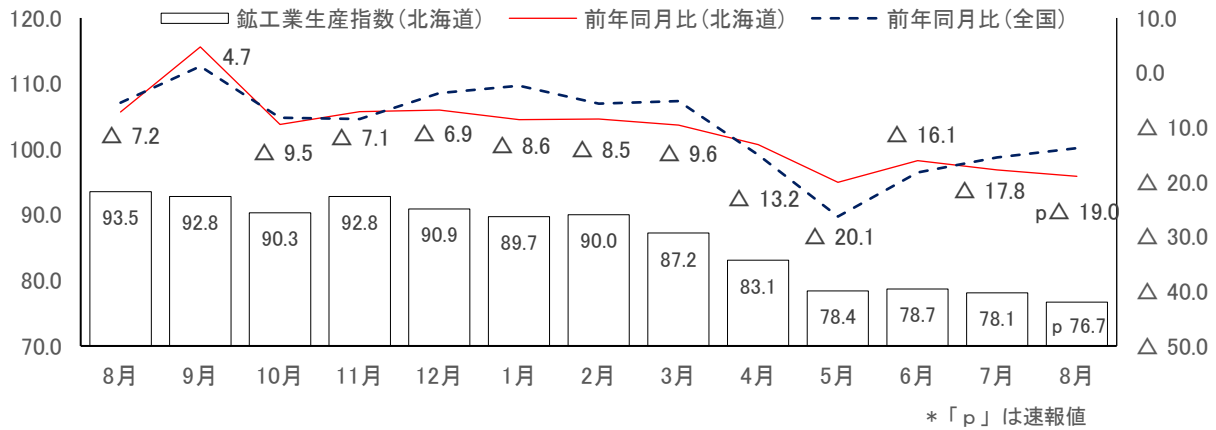
生産活動～低い水準で推移している

鉱工業生産指数（8月）

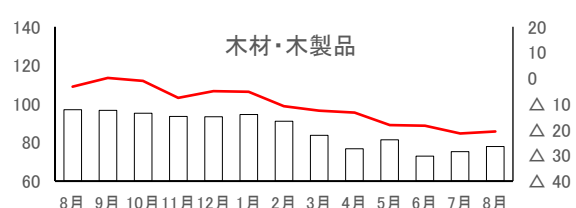
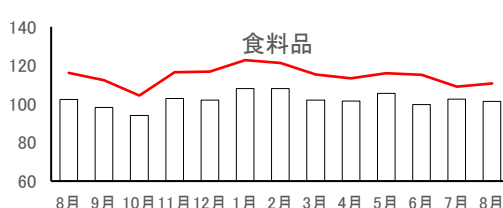
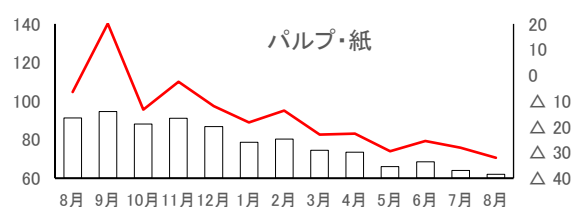
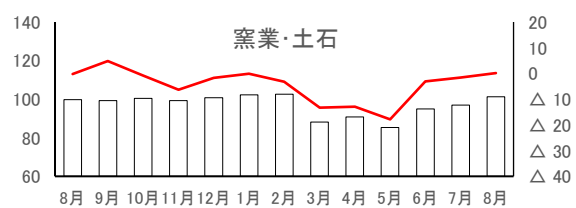
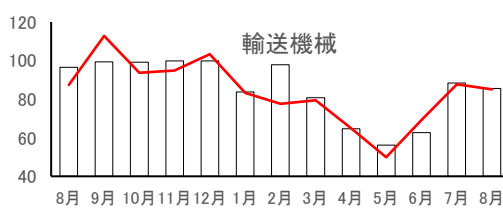
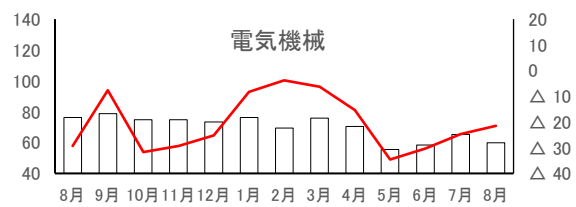
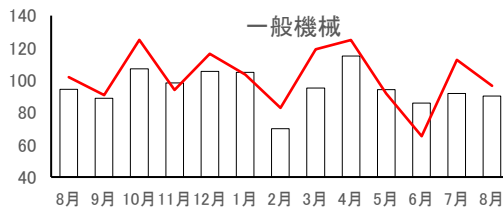
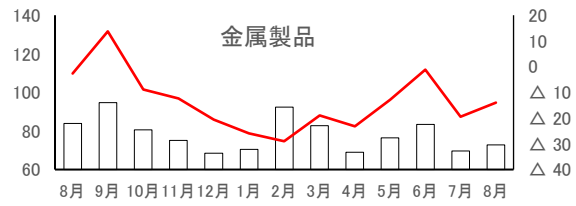
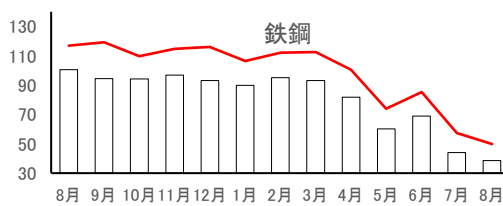
鉱工業生産指数（季節調整済）は、76.7で前月比△1.8%（2か月連続の低下）であり、原指数による前年同月比は、△19.0%（11か月連続の低下）となった。業種別にみると、窯業・土石製品など5業種が前月比上昇、鉄鋼業など10業種が前月比低下となった。

（季節調整済指数：平成27年＝100）

（原指数前年同月比：%）



■主な業種の季節調整済指数(右軸：原指数前年同月比%)

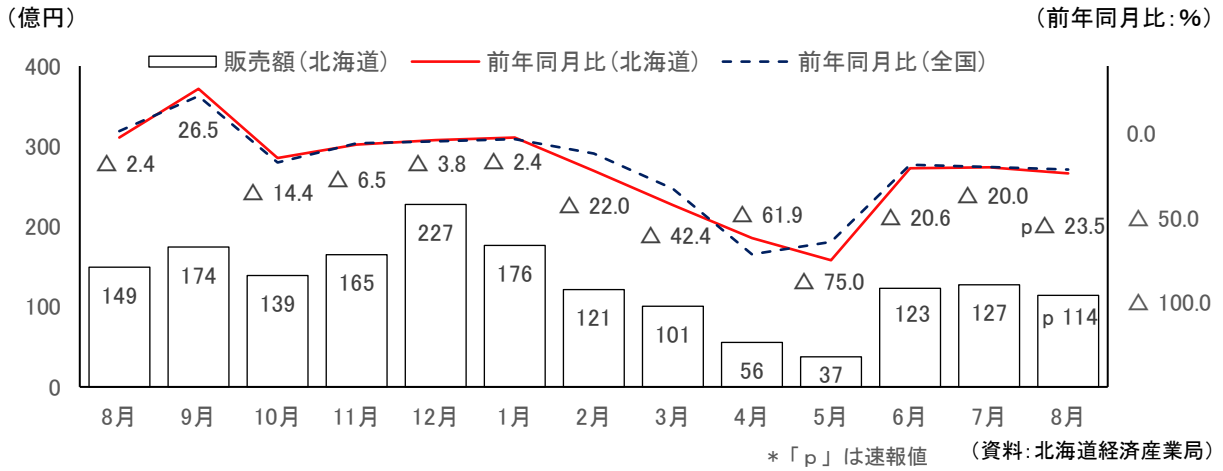


（資料：北海道経済産業局）

■個人消費～一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが広がっている

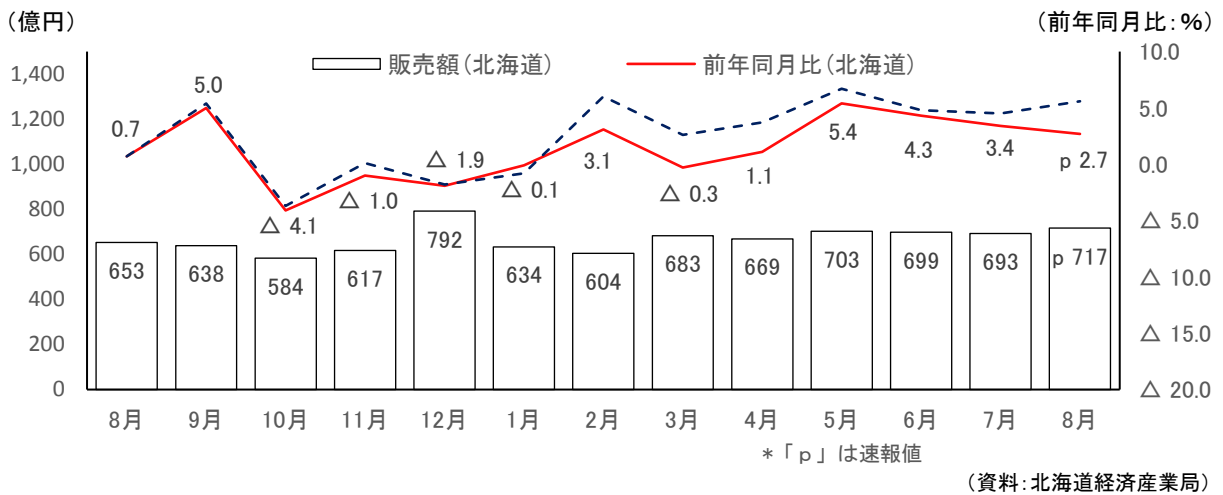
百貨店販売額（8月）

百貨店販売額は、114億円で前年同月比23.5%の減少となり、11か月連続で前年を下回った。



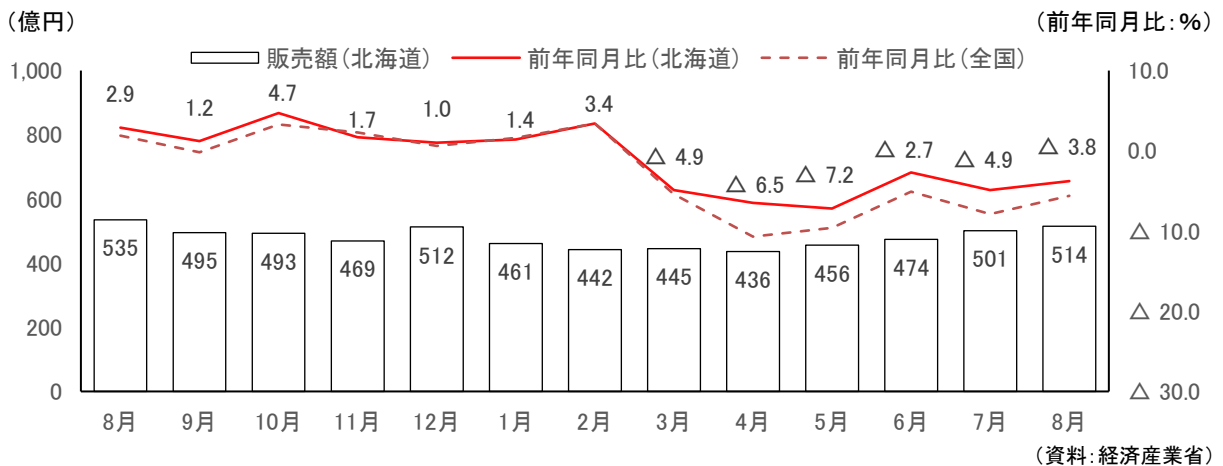
スーパー販売額（8月）

スーパー販売額は、717億円で前年同月比2.7%の増加となり、5か月連続で前年を上回った。



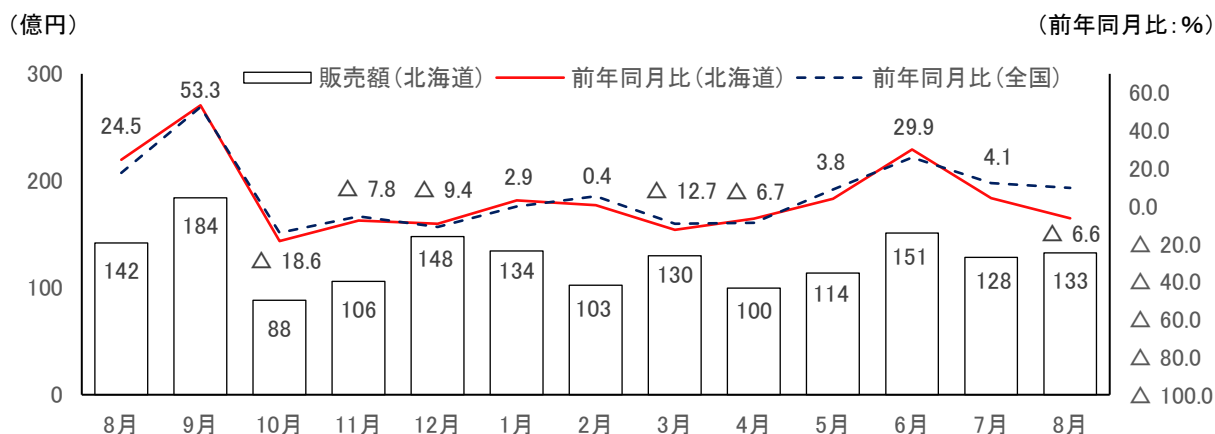
コンビニエンスストア販売額（8月）

コンビニエンスストア販売額は、514億円で前年同月比3.8%の減少となり、6か月連続で前年を下回った。



家電大型専門店販売額（8月）

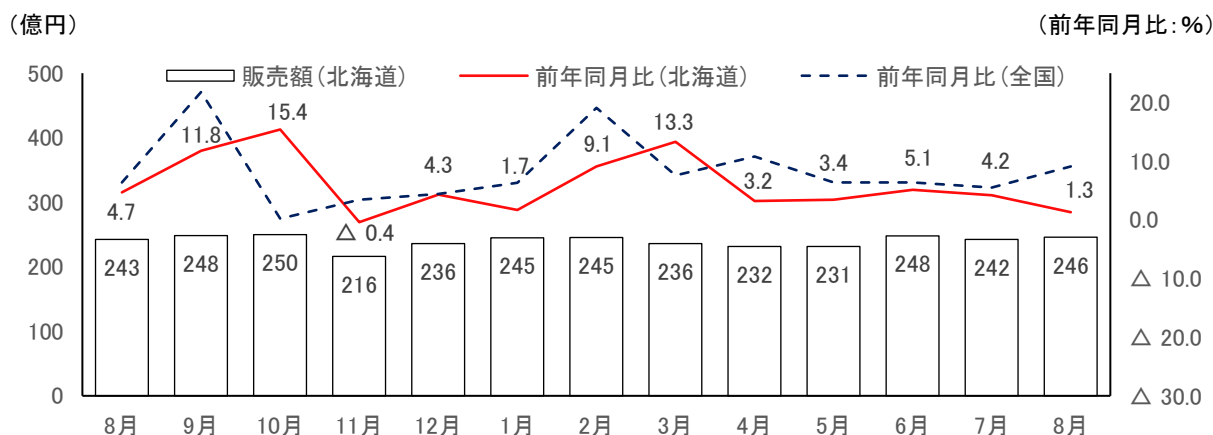
家電大型専門店販売額は、133 億円で前年同月比 6.6%の減少となり、4か月ぶりに前年を下回った。



(資料: 経済産業省)

ドラッグストア販売額（8月）

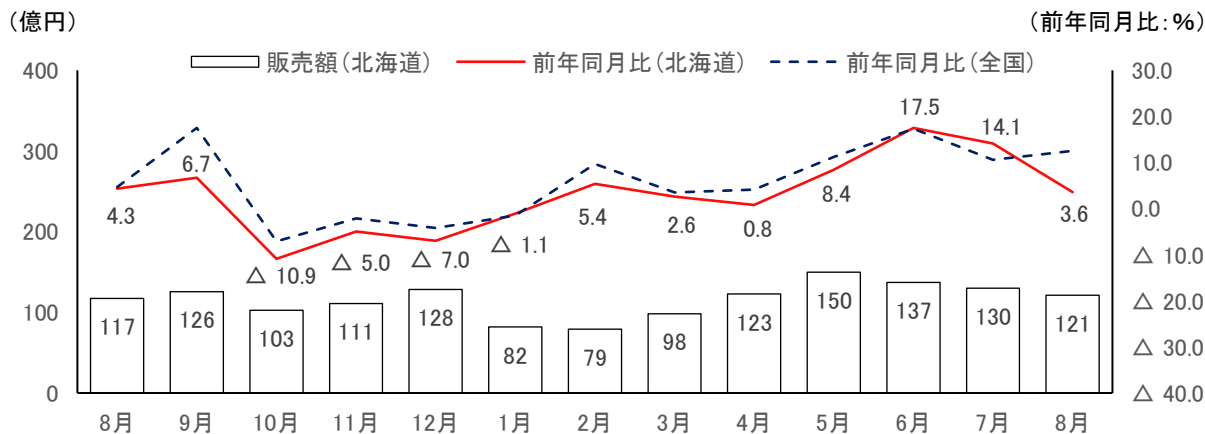
ドラッグストア販売額は、246 億円で前年同月比 1.3%の増加となり、9か月連続で前年を上回った。



(資料: 経済産業省)

ホームセンター販売額（8月）

ホームセンター販売額は、121 億円で前年同月比 3.6%の増加となり、7か月連続で前年を上回った。

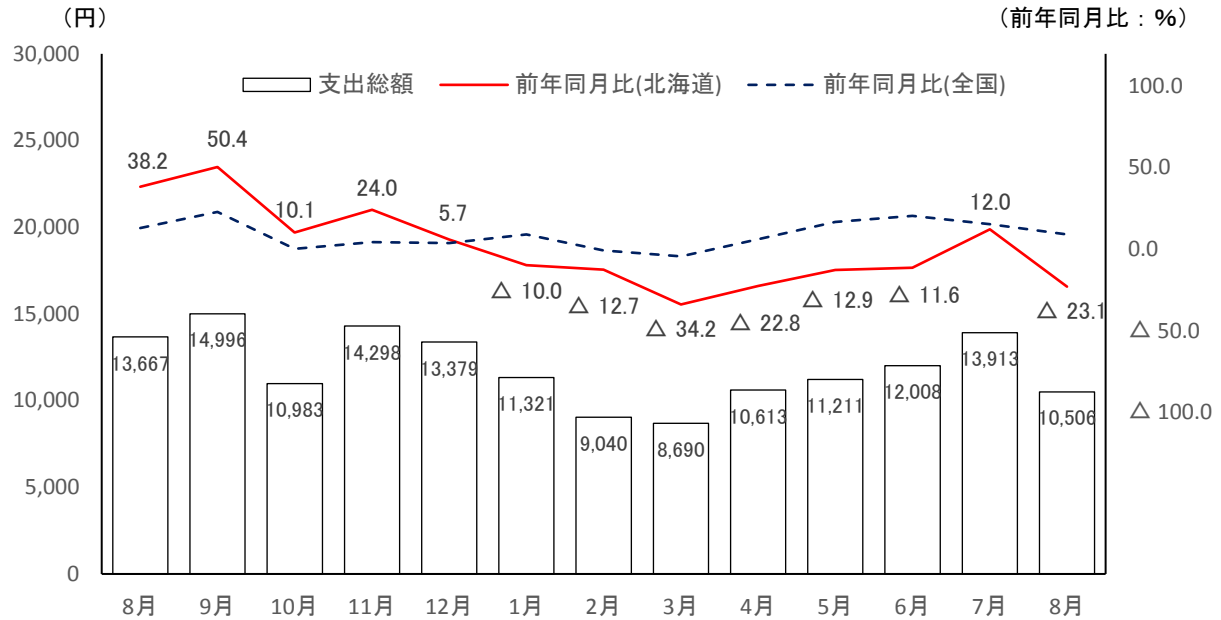


(資料: 経済産業省)

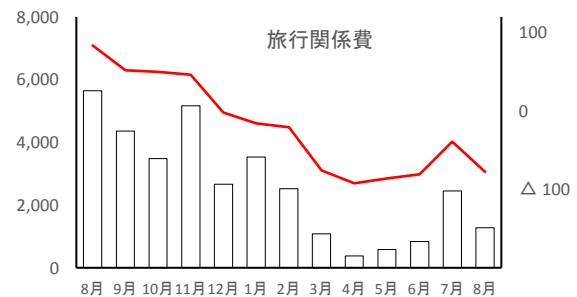
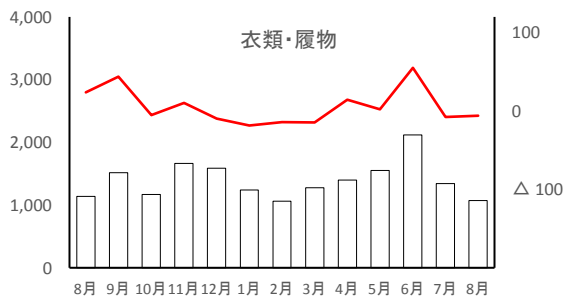
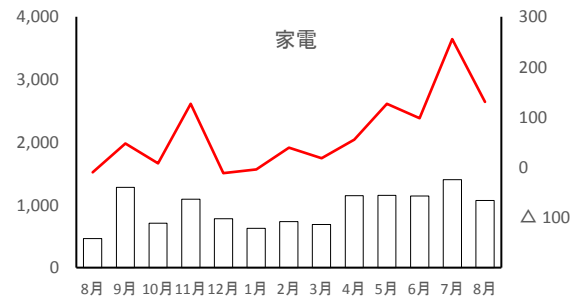
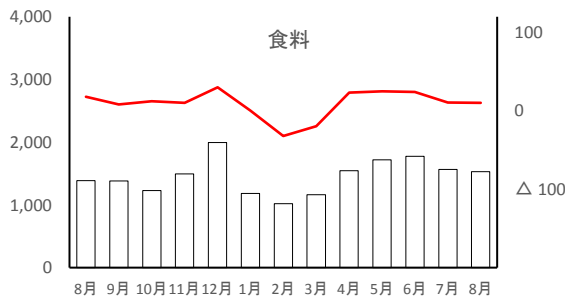
インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出(8月)

インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出総額は10,506円で、前年同月比23.1%の減少となり、2か月ぶりに前年を下回った。

品目別にみると、食料は1,528円で前年同月比10.2%の増加、家電は1,071円で同130.3%の増加となったものの、衣類・履物は1,072円で同5.9%の減少、旅行関係費が1,277円で同77.4%の減少となった。



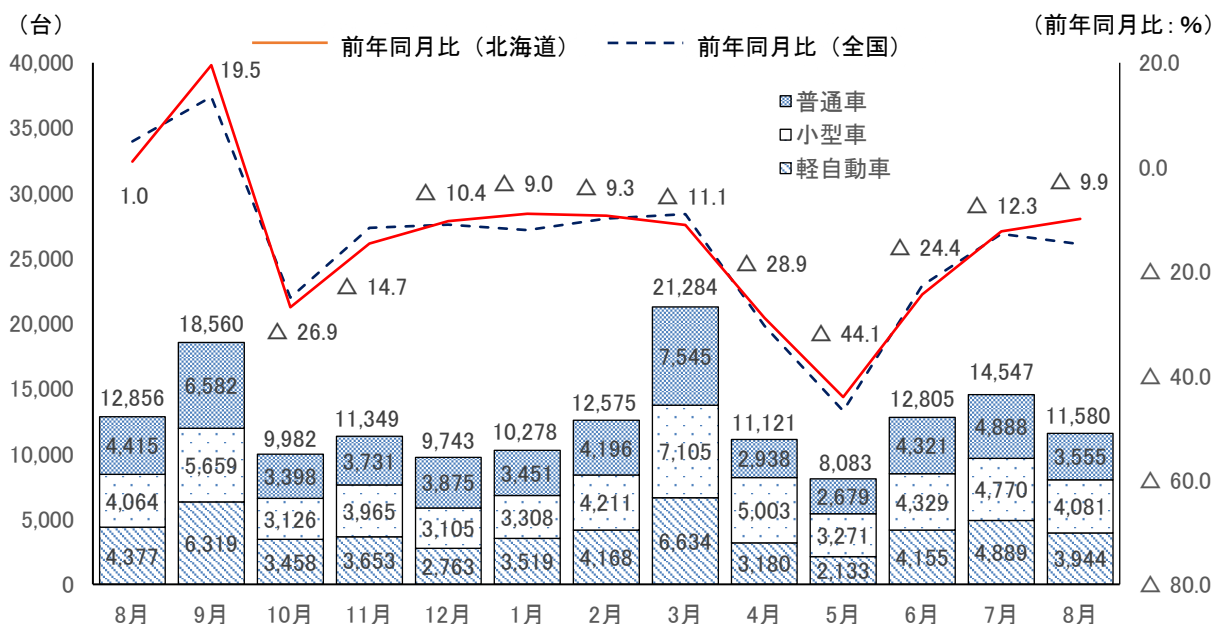
■品目別支出額 (右軸：前年同月比%)



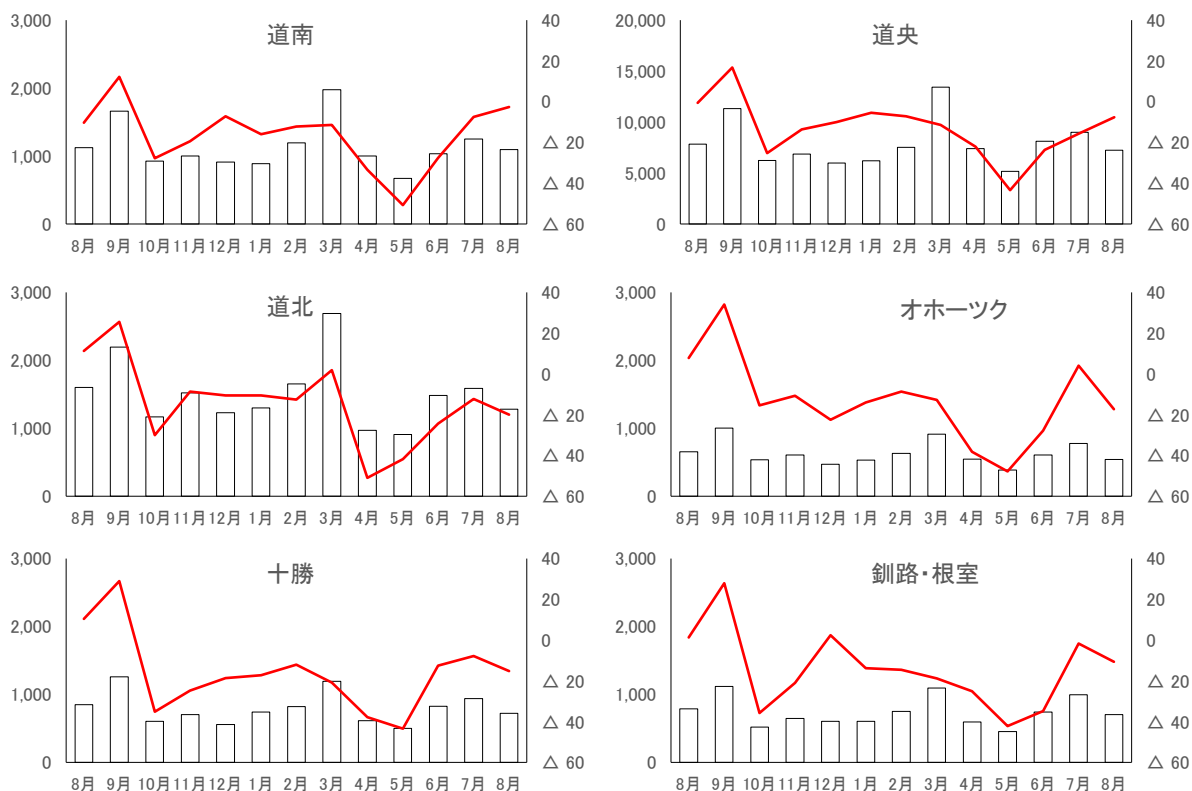
(資料：総務省)

新車登録台数（8月）

新車登録台数は、11,580台で前年同月比9.9%の減少となり、11か月連続で前年を下回った。
 車種別にみると、普通車は、3,555台で前年同月比19.5%の減少、小型車は、4,081台で同0.4%の増加、軽自動車は、3,944台で同9.9%の減少となった。



■各圏域の新車登録台数（右軸：前年同月比%）



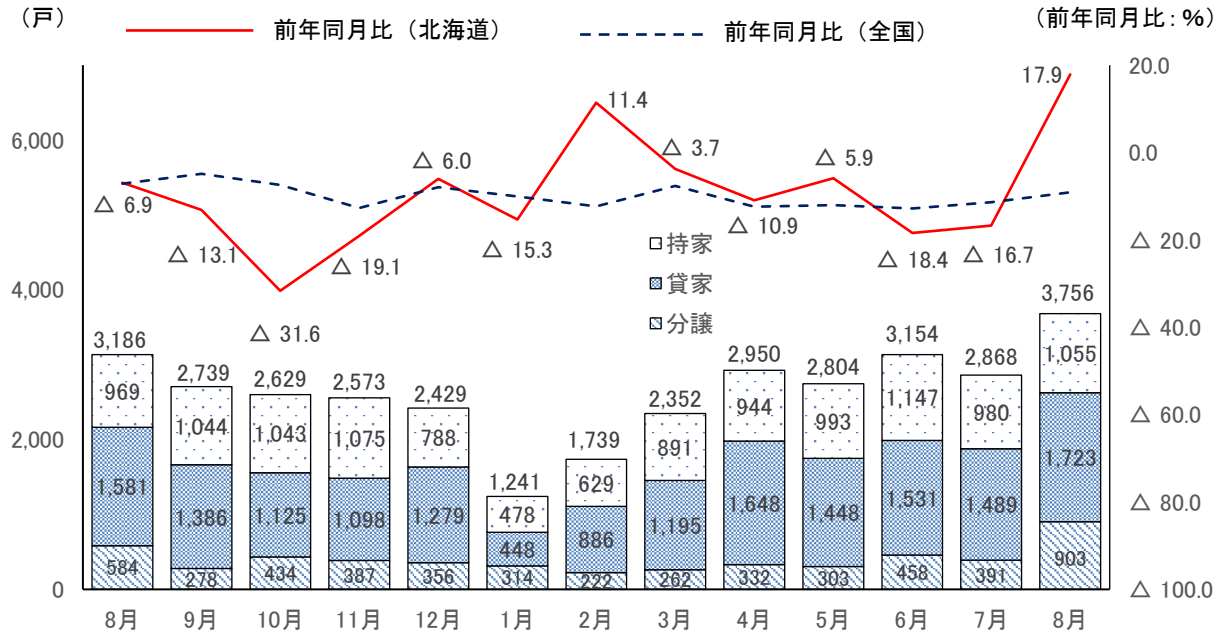
（資料：（一社）日本自動車販売協会連合会、（一社）全国軽自動車協会連合会）

■住宅建設～一部に大型物件があったものの、低調に推移している

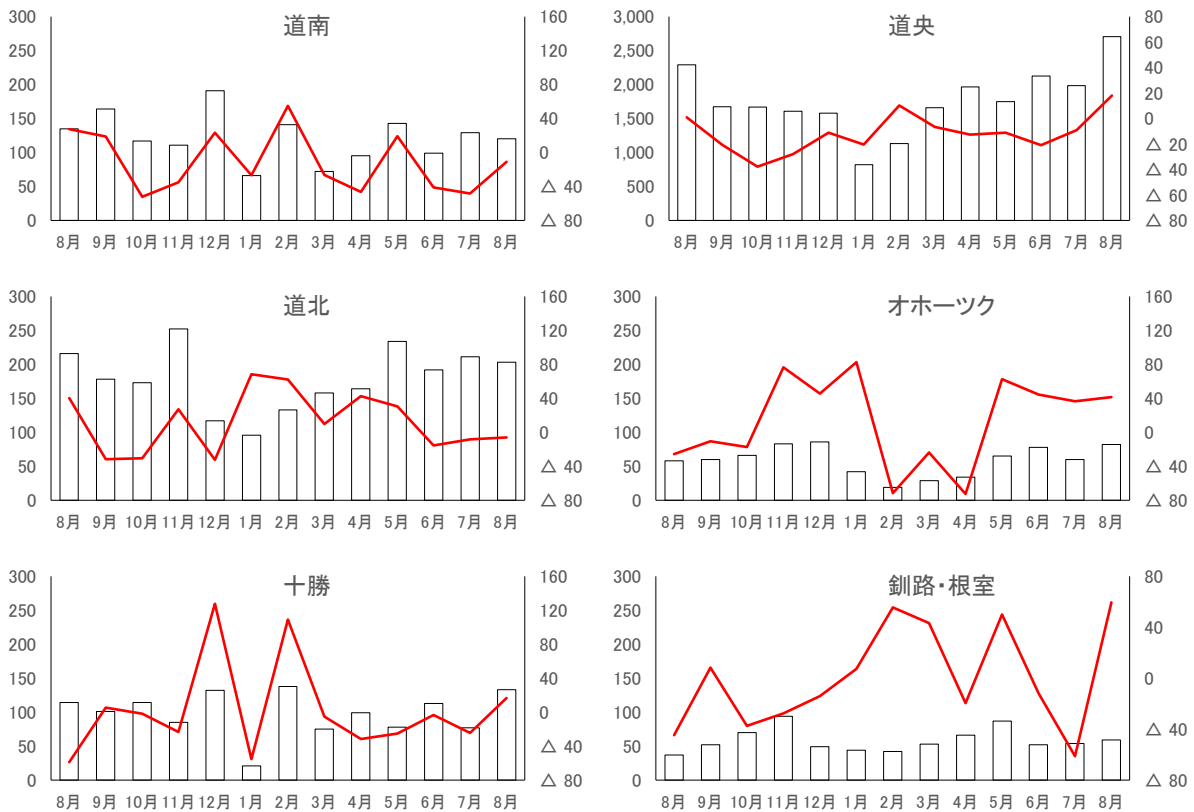
新設住宅着工戸数（8月）

住宅着工戸数は、3,756戸で前年同月比17.9%の増加となり、6か月ぶりに前年を上回った。

利用関係別にみると、持家は、1,055戸で同8.9%の増加、貸家は、1,723戸で同9.0%の増加、分譲住宅は903戸で同54.6%の増加となった。



■各圏域の新設住宅着工戸数（右軸：前年同月比%）

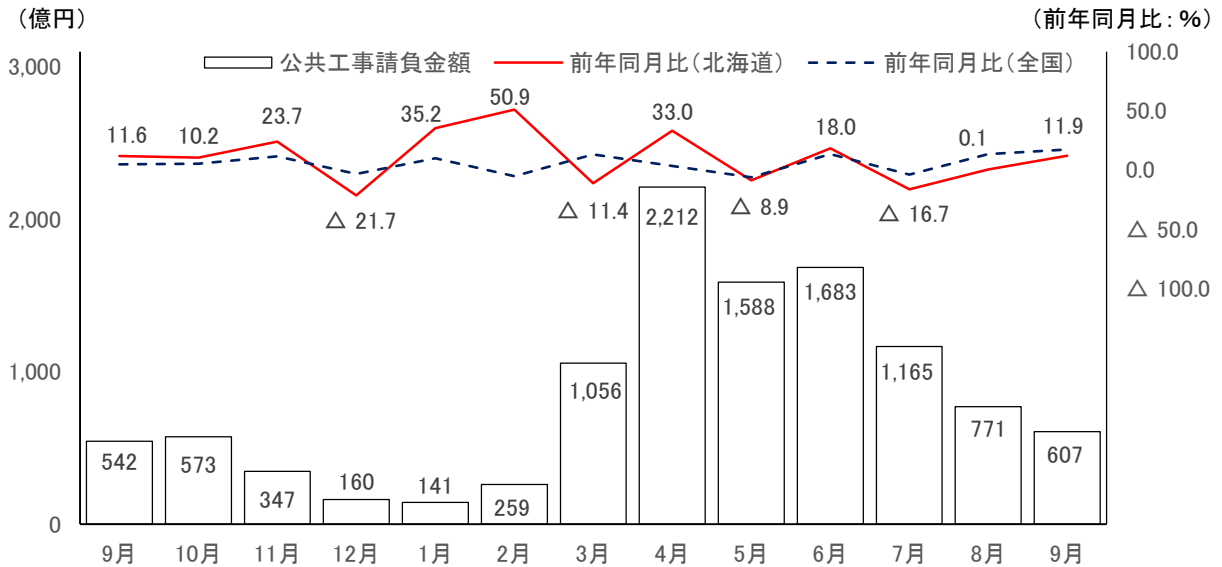


（資料：国土交通省）

■公共工事～増加している

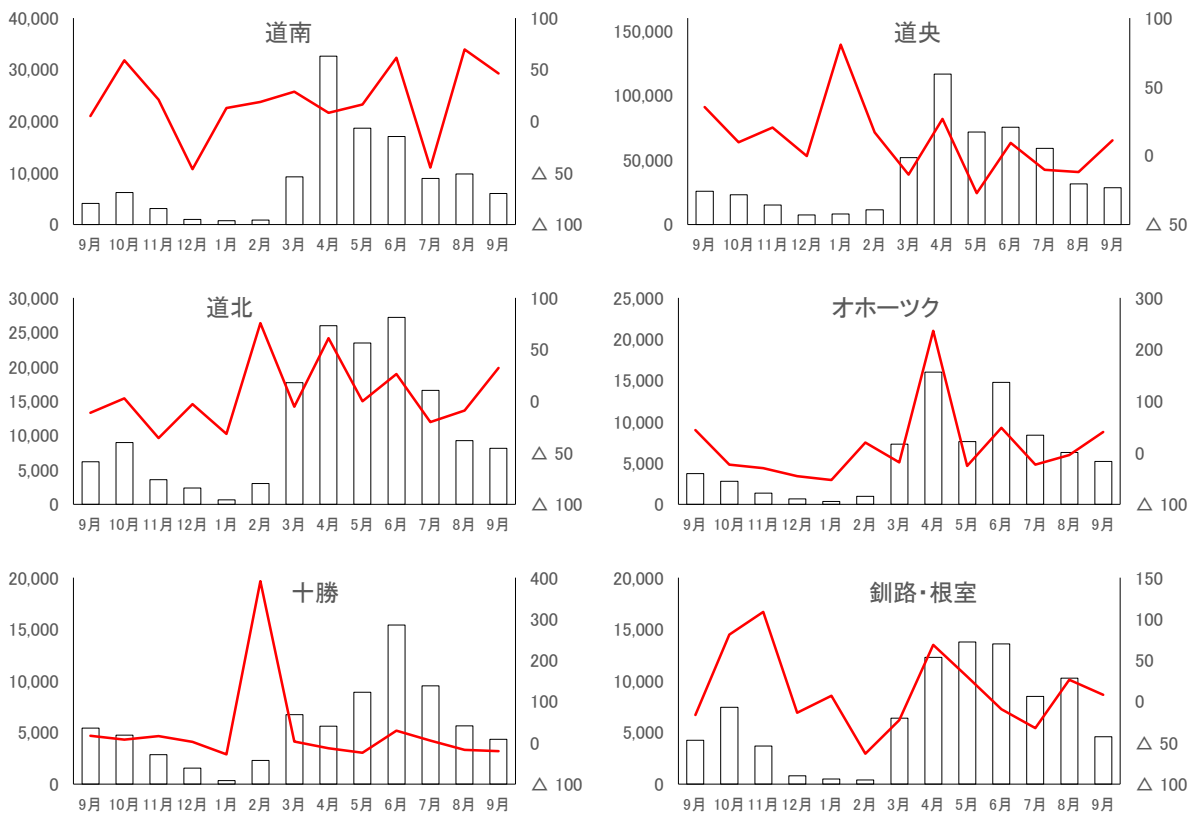
公共工事請負金額（9月）

請負金額は、607億円で前年同月比11.9%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。



(資料:北海道建設業信用保証(株))

■各圏域の公共工事請負金額（左軸：百万円、右軸：前年同月比%）

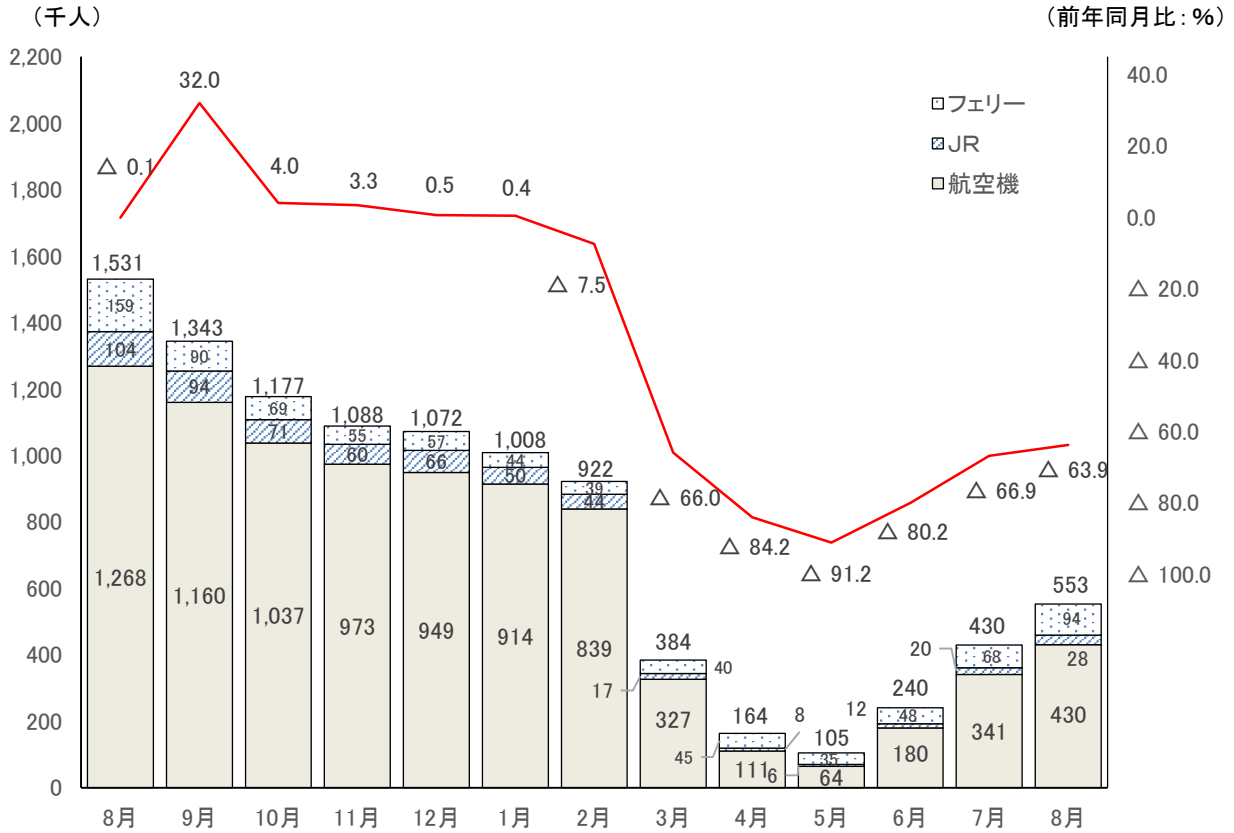


(資料:北海道建設業信用保証(株))

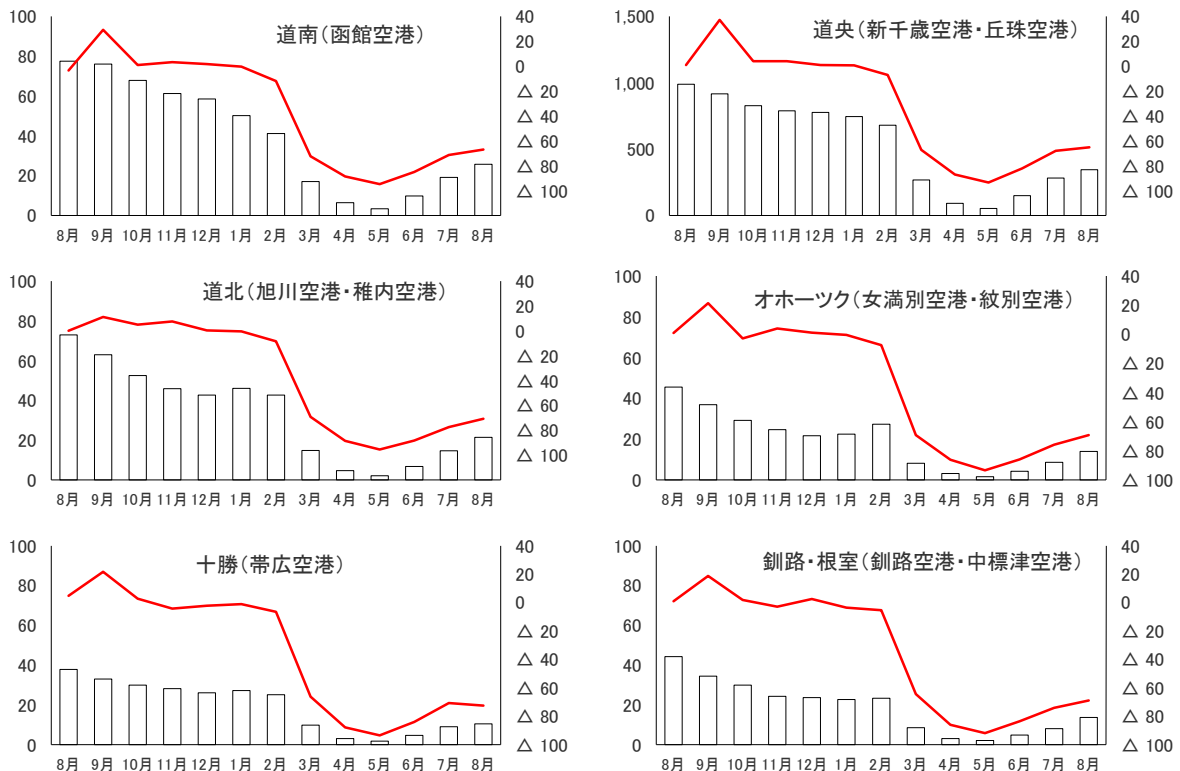
■観光～低い水準にあるものの、持ち直しの動きが広がっている

来道者数（8月）

来道者数は、55万人で前年同月比63.9%の減少となり、7か月連続で前年を下回った。



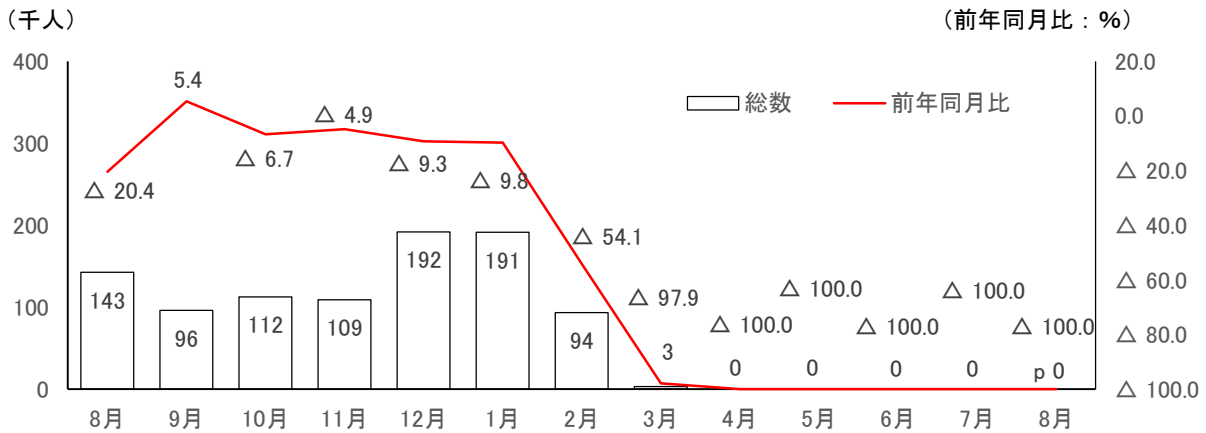
■各圏域の航空機利用による来道者数（左軸：千人、右軸：前年同月比%）



(資料：(公社)北海道観光振興機構)

来道外国人数（8月）

本道に直接入国した外国人は、0人で前年同月比 100.0%の減少となり、11 か月連続で前年を下回った。

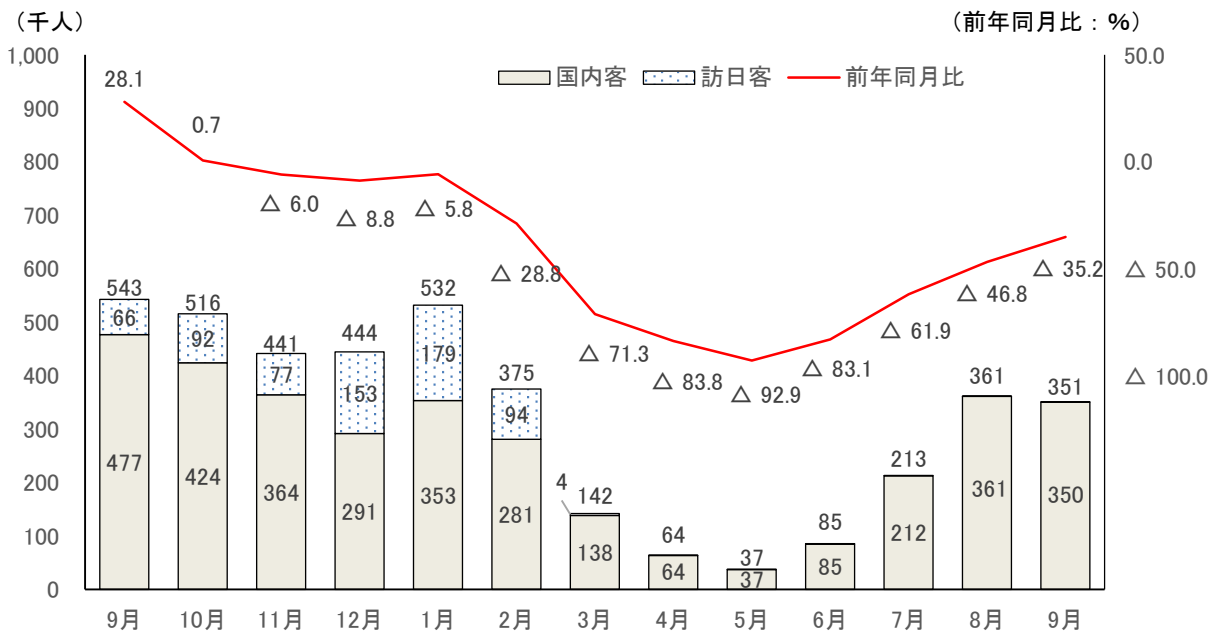


* 「p」は速報値 (資料:法務省入国管理局)

宿泊者数（9月）

日本旅館協会加盟施設の宿泊者数は、350,703人で前年同月比 35.2%の減少となり、11 か月連続で前年を下回った。

このうち、国内客は 350,449人で同 26.4%の減少、訪日客は 254人で同 99.6%の減少となった。

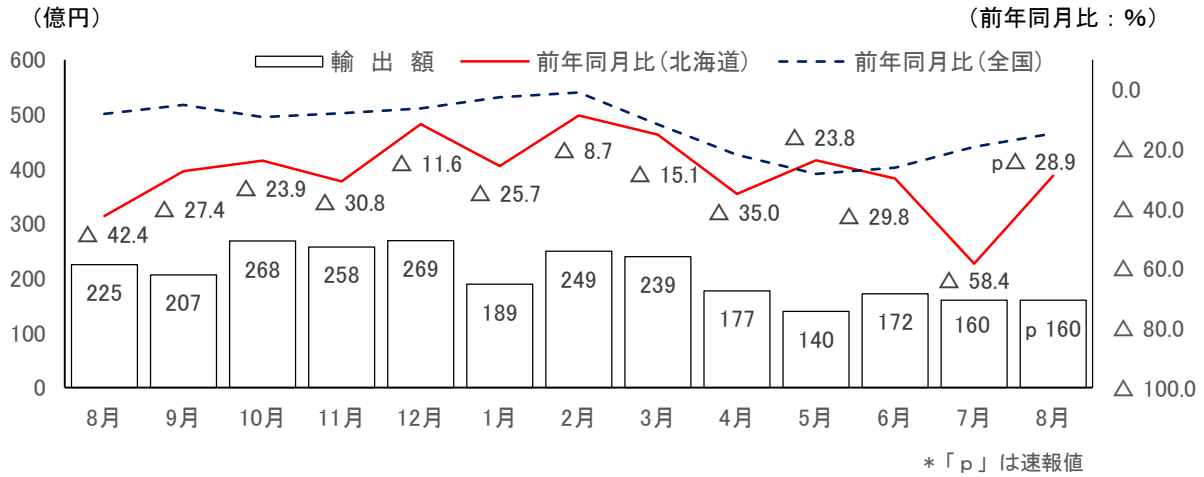


(資料:日本旅館協会北海道支部連合会)

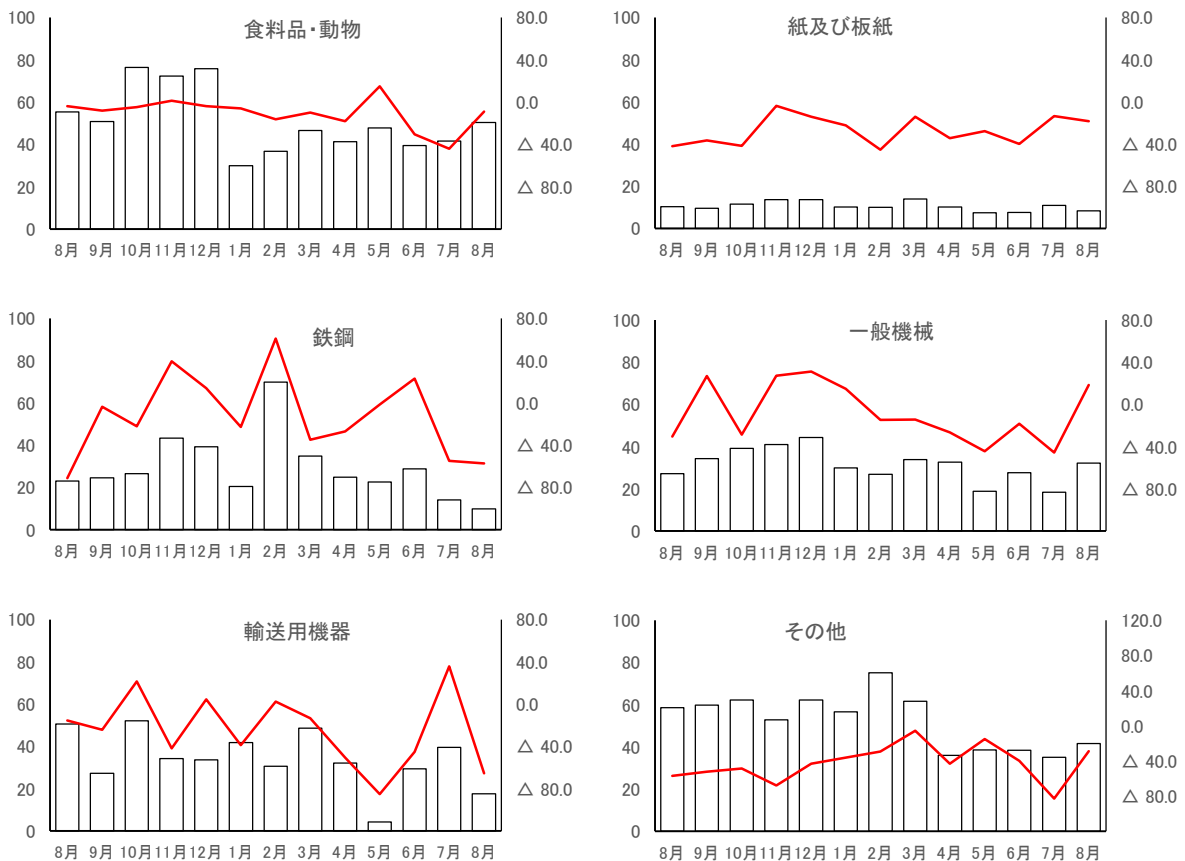
■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を下回った

輸出額（8月）

輸出額は、160億円で前年同月比28.9%の減少となり、13か月連続で前年を下回った。品目別にみると、食料品・動物や一般機械などが増加したものの、鉄鋼や輸送用機器などが減少した。



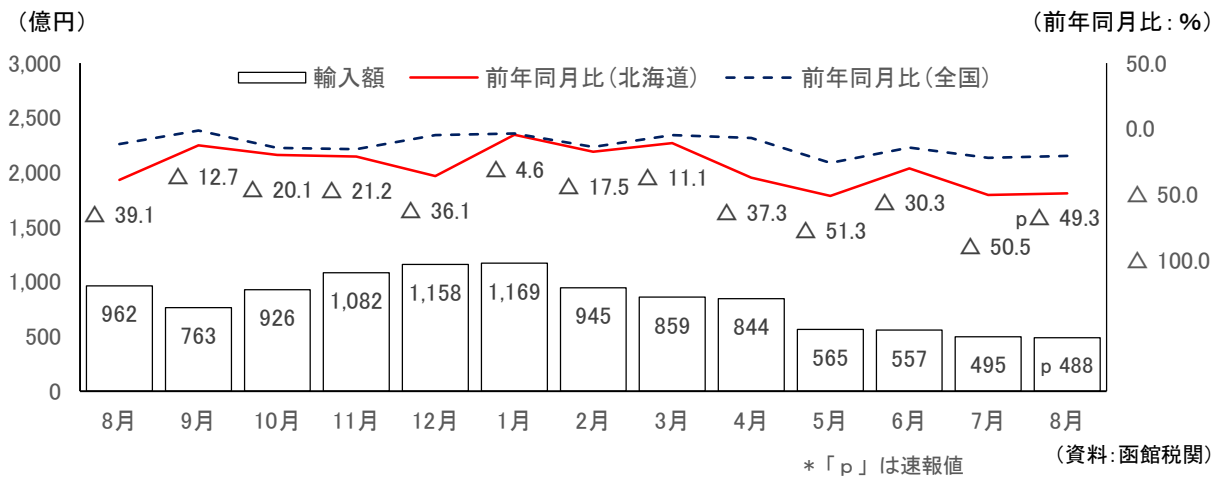
■種類別の輸出額（右軸：前年同月比%）



(資料:函館税関)

輸入額（8月）

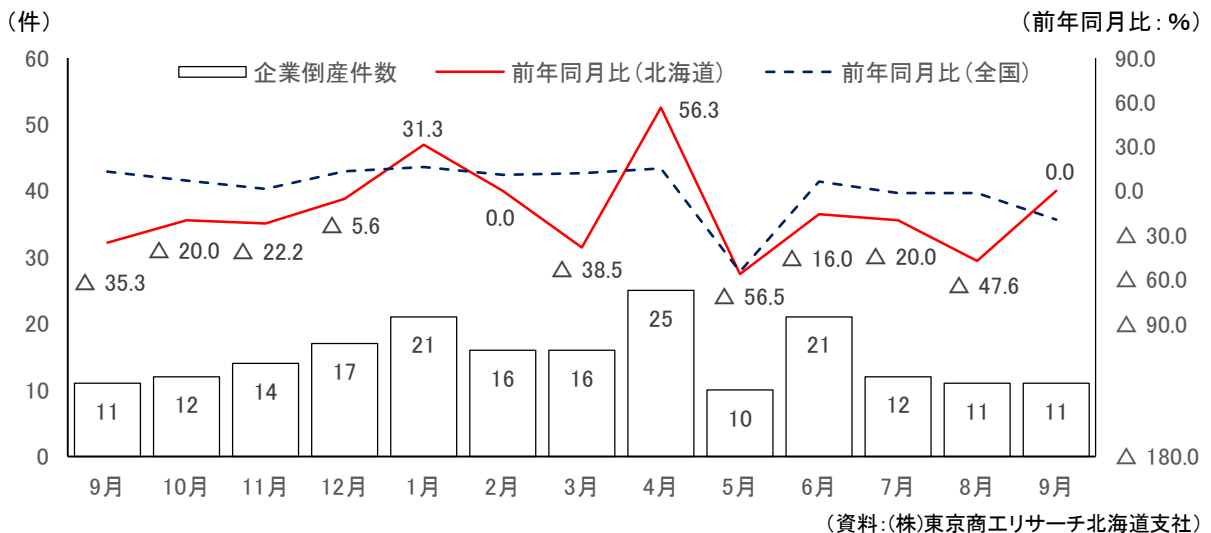
輸入額は、488億円で同49.3%の減少となり、16か月連続で前年を下回った。
品目別にみると、原油・粗油、石油ガス類、石炭などが減少した。



■企業倒産～倒産件数、負債総額ともに減少した

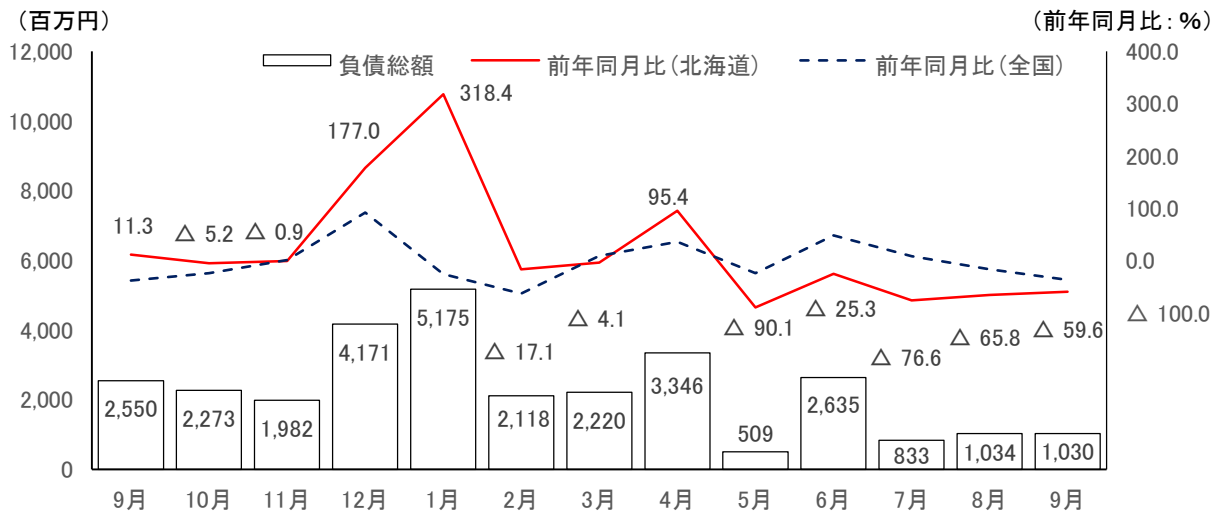
倒産件数（9月）

企業倒産件数は11件で前年同月と同数となった。
原因別でみると、販売不振が6件（構成比 54.5%）と半数以上を占めた。
業種別でみると、運輸業、サービス業が各3件（各構成比 27.3%）となった。

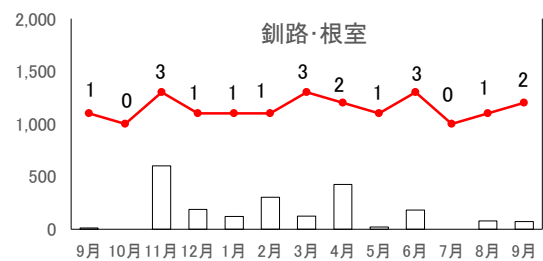
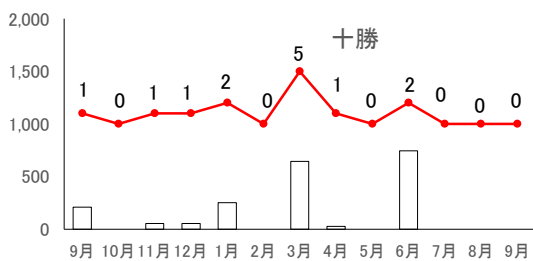
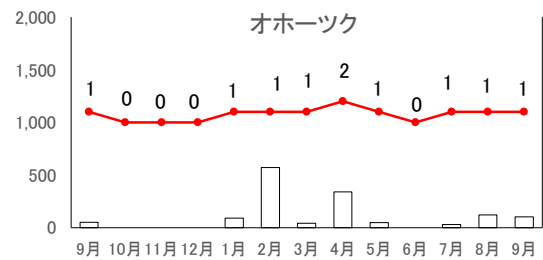
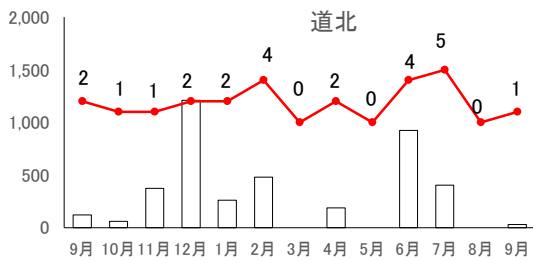
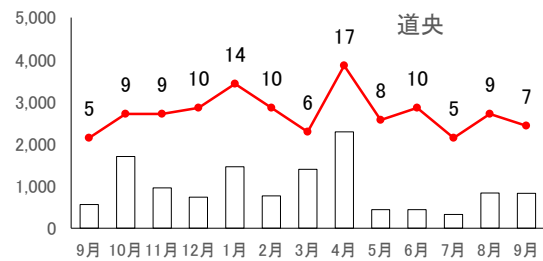
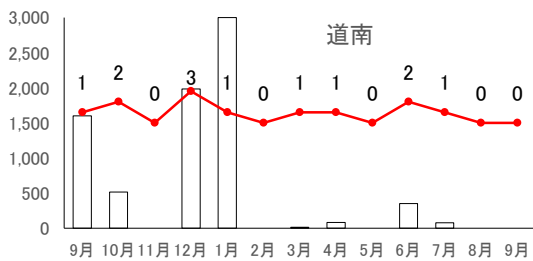


負債総額（9月）

負債総額は、10億30百万で同59.6%の減少となり、5か月連続で前年を下回った。



■各圏域の負債総額と倒産件数（折れ線）

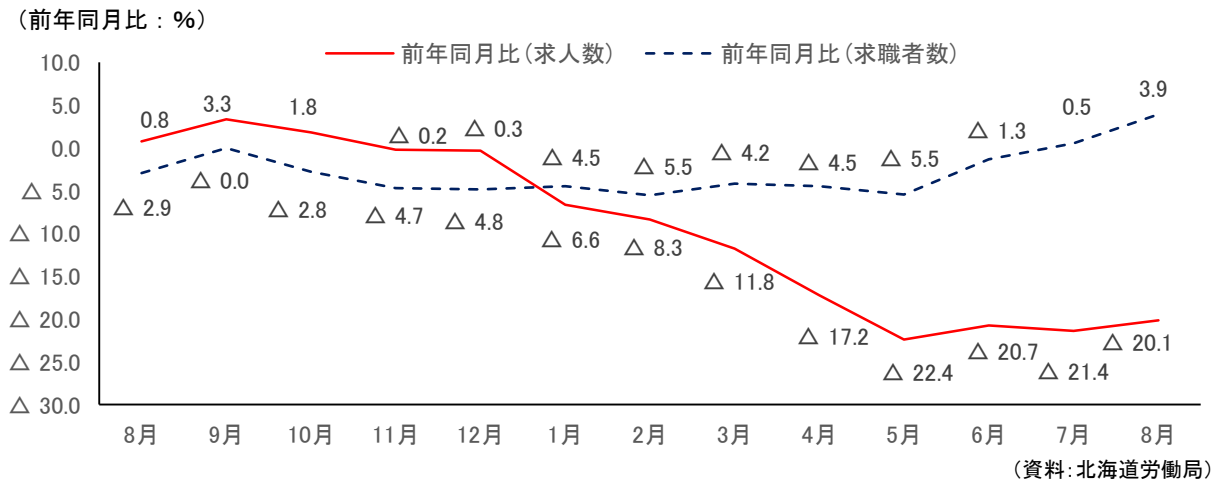
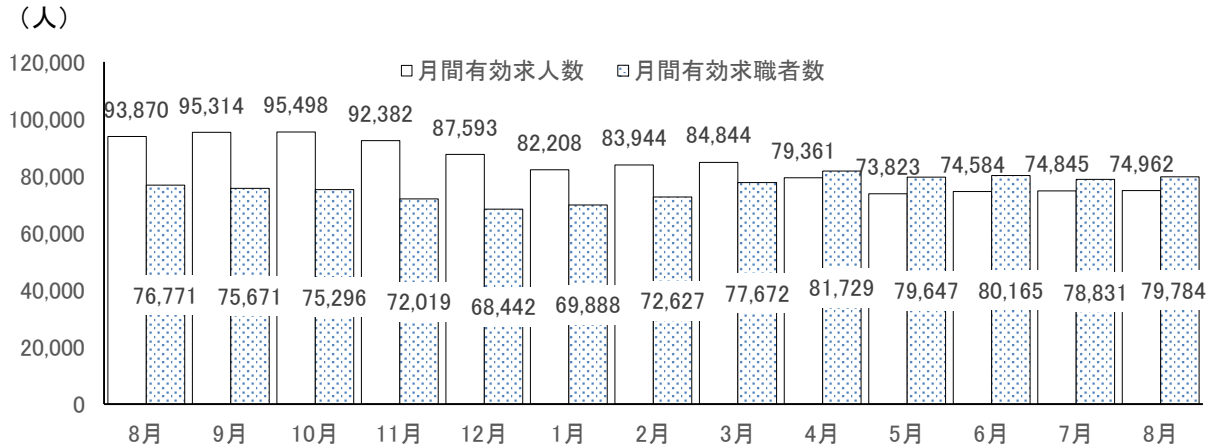


(資料:(株)東京商工リサーチ北海道支社)

■求人・求職～さらに弱い動きが広がっている

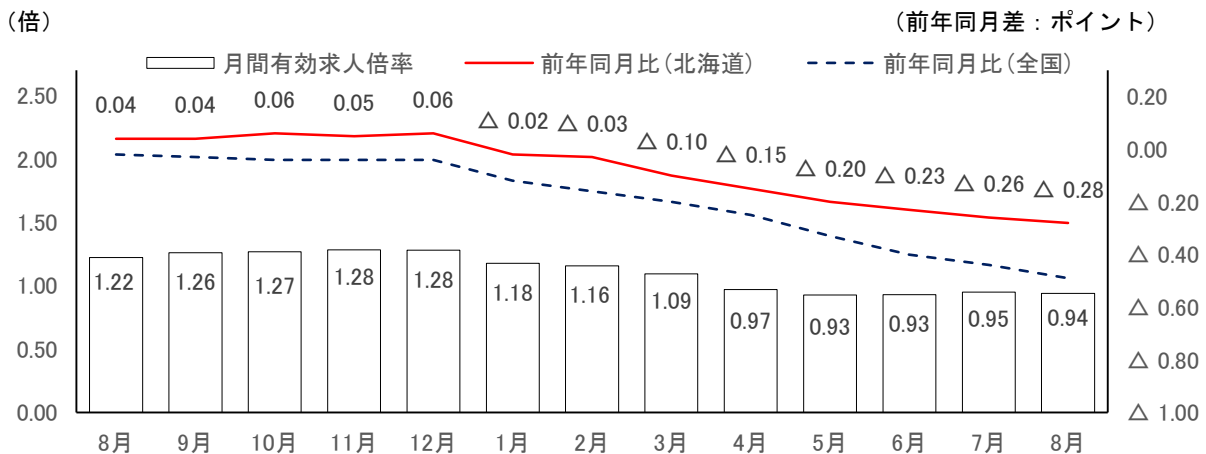
月間有効求人数・求職者数（8月）

月間有効求人数は、7万4,962人で前年同月比20.1%の減少となり、10か月連続で前年を下回った。月間有効求職者数は、7万9,784人で同3.9%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。

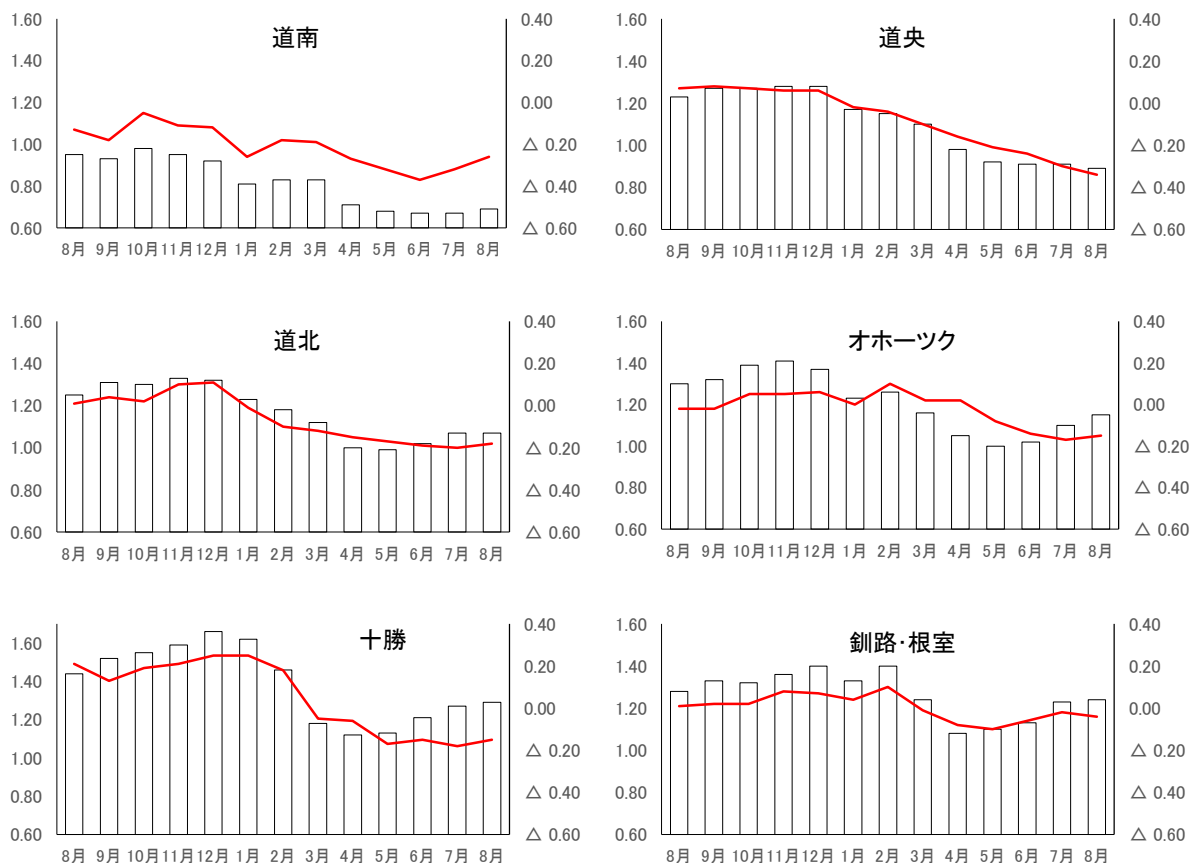


月間有効求人倍率（8月）

有効求人倍率は0.94倍で、前年同月差で0.28ポイントの減少となり、8か月連続で前年を下回った。



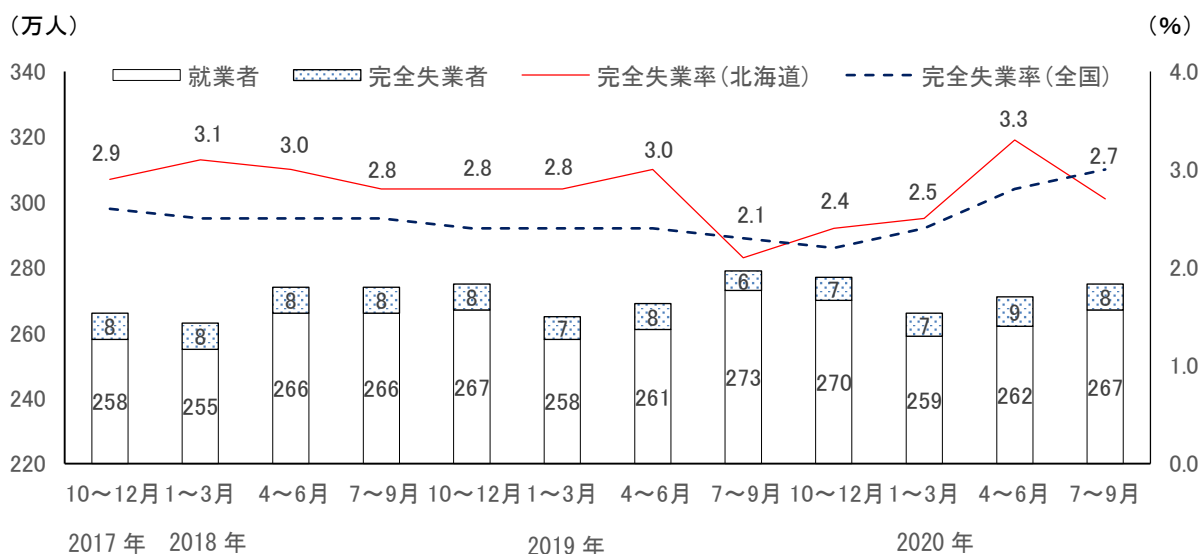
■各圏域の月間有効求人倍率（右軸は前年同月差）



(資料:北海道労働局)

完全失業者数、完全失業率（令和2年7～9月）

完全失業者数は、前年同期と比べ、2万人増加している。
完全失業率は、2.7%で前年同期と比べ、0.6ポイント上昇となっている。

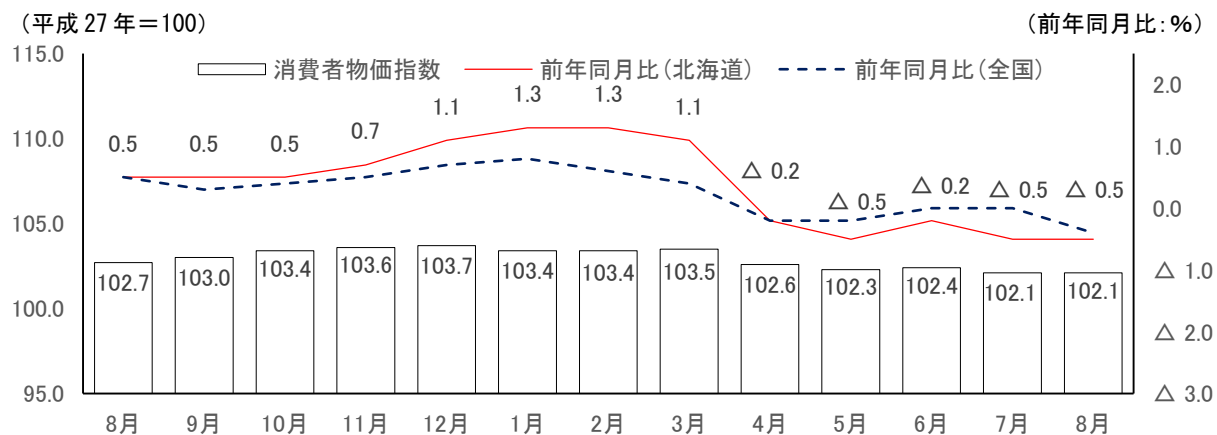


(資料:総務省)

■物価～消費者物価指数は前年を下回った

消費者物価指数（8月）

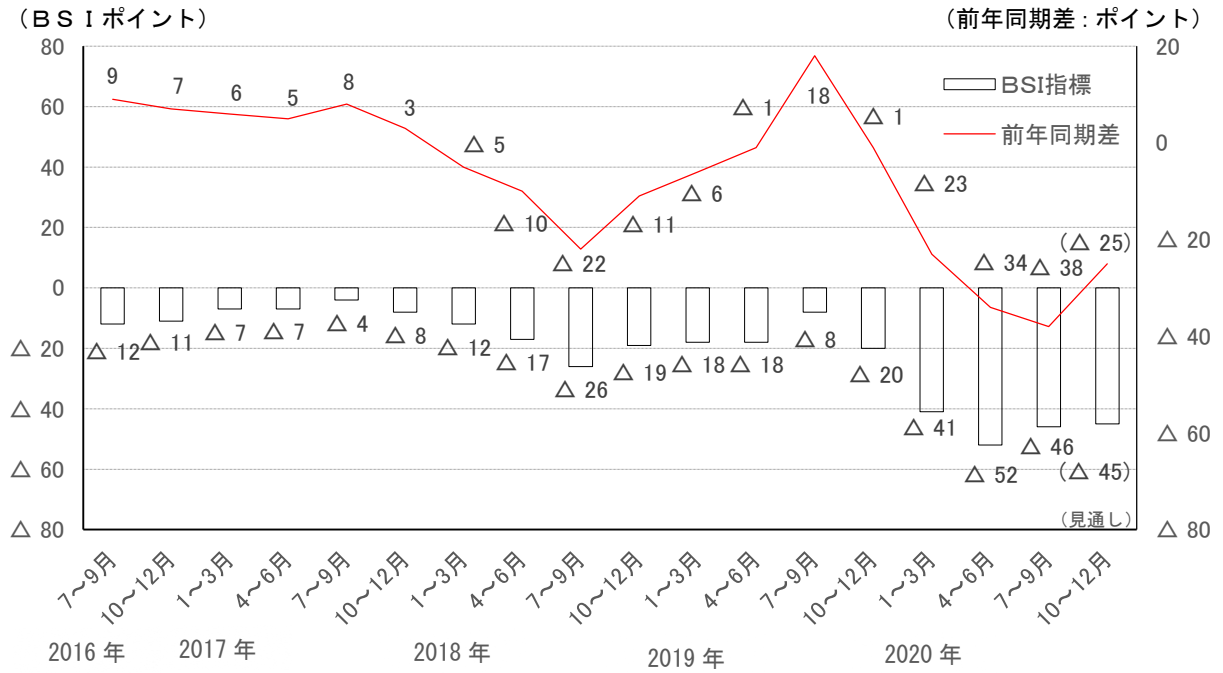
消費者物価指数（生鮮食品を除く）は、102.1で前年同月比0.5%の下降となり、5か月連続で前年を下回った。



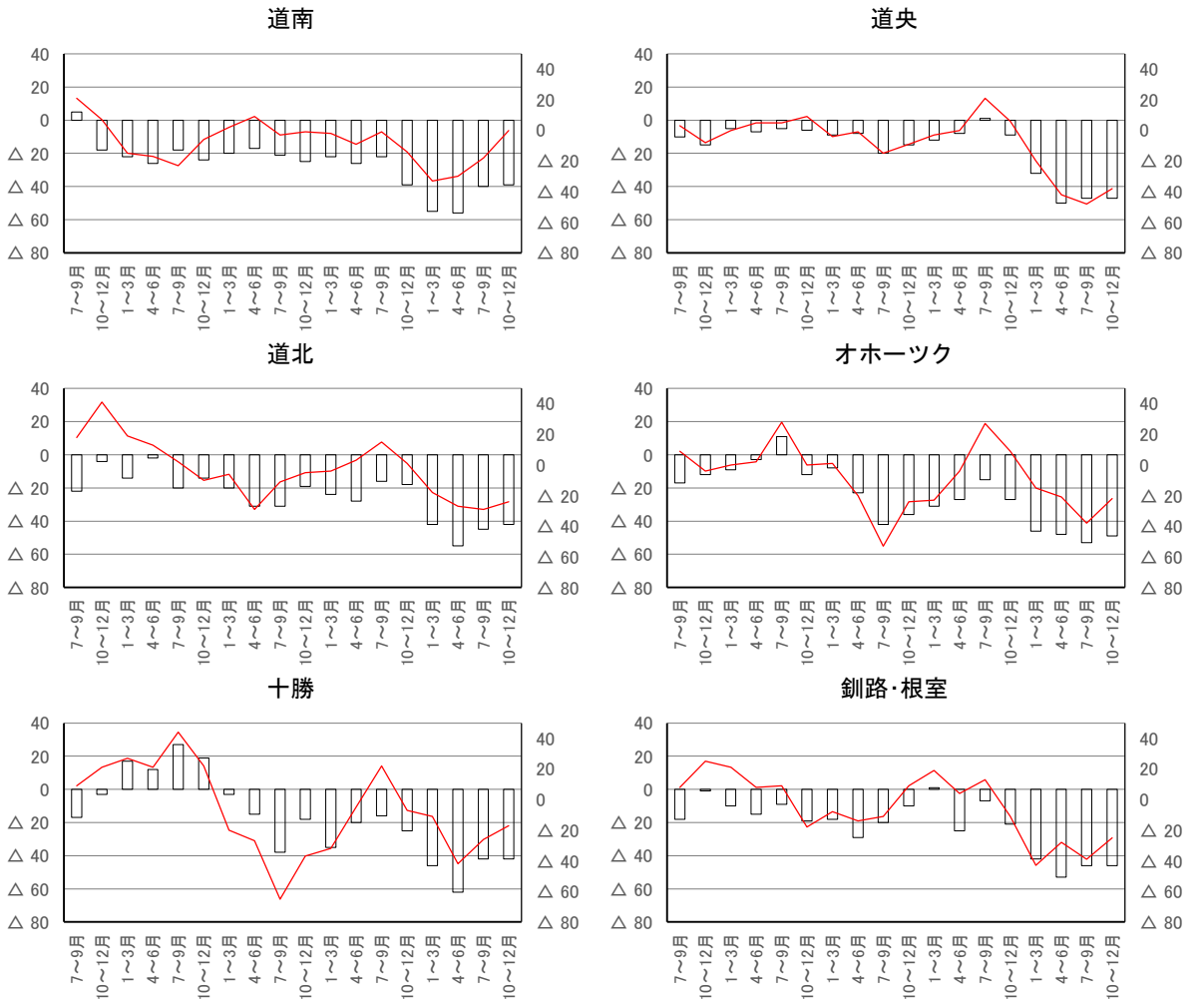
(資料:総務省)

■企業経営者意識調査～前期から上昇している

令和2年7～9月期の業況感BSIは△46ポイントで、前期から6ポイント上昇しており、前年同期より38ポイント下降している。来期見通しは△45ポイントで、今期から1ポイント上昇の見通しとなっている。



■各圏域の業況感BSI (右軸：前年同期差)



(北海道経済部調べ)

■企業のみなさまから伺いました

◆百貨店（道央地域）

【高額品の戻りが見られ、おせちの予約が好調】

9月は、コロナによってインバウンド売上がなくなったことと、昨年は増税前の駆け込み需要があったことで、前年比売上げは引き続き減少している。一方で、富裕層の戻りが早く、ラグジュアリーブランドや時計の売上げが好調。国内の旅行客については、大幅な戻りとはいえないが、10月中旬以降は徐々に来客数が増えてきている。おせちについては例年より日程を前倒しして予約を開始しているが、出足は好調となっている。

◆スーパー（道央地域）

【増収幅は前月より縮小】

9月も来店客数の減少を上回る客単価の増加という傾向は変わらず、4連休中の売上は増加したものの、全体の増収幅は前月より小さくなった。ただし、前年同月より日曜日が1日少ないことに加え、昨年の消費増税前の駆け込み需要の反動減が中旬以降に表れたという面があるため、前年比での評価は難しいところ。

【需要の純増と駆け込み増と前年比反動減が交錯】

品目別では、生鮮食品や日配食品（豆腐、牛乳など）は前年比較で伸びが続いているほか、10月からの酒税改定に伴い「新ジャンル」の酒類の売上が伸び、たばこも値上げを前に9月中旬以降に駆け込み買いが見られた。

他方、消費増税対象で前年同月に駆け込み需要があった日用雑貨（紙製品、洗剤等）や酒とともに、増税すると勘違いされて売上が伸びたドライ系飲料は、その反動で前年比の数字は下がった。

◆コンビニエンスストア（道央地域）

【アウトドア目的の観光地は好調】

9月の4連休は「GO TO トラベル」や「どうみん割」の効果で、特にアウトドアを目的とした観光地の客足が非常に好調だった。

【一部の酒類で駆け込み需要】

10月から値上げとなったタバコや第三のビールなど、一部の酒類に税率引き上げ前の駆け込み需要があり、月末に売上が大きく増加した。前年比でみると、昨年の消費増税前の駆け込み需要の反動減となった商品もみられるものの、生鮮品など家庭内で消費される商品は引き続き好調だった。

◆生コンクリート・砕石製造業（道央地域）

【工事物件の動き遅い分、在庫は豊富】

砕石業の生産は3密を回避できる環境にあり、比較的、コロナの影響を受けづらい業種と言え販売価格も横ばいで推移している。今年度の前半の売上は振るわなかったものの、生産に支障が出なかったため、在庫は豊富な状況である。受注している民間工事については、動きは遅いものの延期していた物件が徐々に再開していく模様である。官庁工事については比較的計画通り進んだが、次年度の予算の縮小を心配しており、先行きの売上見通しはあまり明るくない。官庁、民間共、来期に控えている大型物件に期待している。

生コンについては、前半比較的順調に推移したが下期については計画通り行くか不透明であり、5%~10%程度の減収を見込んでいる。

【相変わらずの売り手市場】

新卒女子については求人数に対し5倍程度の応募があったものの、内定辞退等もあり相変わらず売り手市場が継続されている。大卒男子についてはあらゆる手段（ジョブキタ・マイナビ・ハローワーク他）を駆使しているが、いわゆる3K職場は敬遠されているようで、会社説明会への応募もほぼない状況。高卒についても専門学校、大学等への進学率が高まっており、応募までには至っていない状況である。

最近の経済動向

令和2年10月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>